

⑦山代温泉湯の曲輪景観整備地区 景観形成基準

種 別			景 観 形 成 基 準
建 築 物	高 さ		古総湯と調和を図るため、原則として2階建てとする。 やむを得ず3階以上とする場合、道路に面する3階以上の壁面は2階部分より後退する。
	屋 根	形 式	伝統的形式の切妻、入母屋等勾配のあるものとする。 やむを得ず陸屋根とする場合は、庇を設け、周辺景観と調和を図る。
		材 料	日本瓦とし、原則として古代赤瓦（歴史的赤茶色粘土瓦）とする。
	壁 面	位 置	外壁の位置や軒線の高さはまちなみの連続性の確保に努める。 やむを得ず壁面を後退する場合は、まちなみの連続性確保のため、土塀や板塀などを設置する。
		材 料	建築物の外壁材は漆喰塗り風又は木製板張りを基本とする。
		色 彩	外壁の色彩は漆喰等材料独自の色又は、温かみのある落ち着いた色彩とする。
		窓・格子	木製又は木調、こげ茶色、黒系色アルミ製とする。 通りに面する窓や戸は、できる限り面格子や格子戸を設け、まちなみの景観に配慮する。
	そ の 他	配 置	大規模な建築では棟を分けて、建物のボリューム感・圧迫感をできるだけ小さく抑える。
		意匠の復元	老朽化等により伝統的な意匠を隠している看板建築等は、できる限り取り外し、従来の建物の意匠復元に努めるものとする。
		門・塀	門、塀を設ける場合は、建築物と同調したデザインとし、空洞コンクリートブロック積みは避ける。
工 作 物	設 備		道路から見えない場所に設置するか、目隠し等で見えないように配慮する。 設備の色彩は建築物と同調色とし、突出した色は避ける。 目隠しは建築物と同調させ、周辺景観との調和に配慮する。
そ の 他	敷地の緑化		既存の緑を保全するほか、敷地内の植栽に努める。
	駐 車 場		駐車場や空き地の周囲は、植栽を心がけるか、土塀・板塀又は生垣等で囲む。

◆景観計画に基づかない基準

種 別		景 観 形 成 基 準	
太陽光発電設備等		配置	山代温泉湯の曲輪（区域図参照）から認識できる場所には設置しないよう努める。
		形態意匠	建築物本体と一体的に見える形態とすることを原則とする。
工 作 物	広 告 物	表示面積	広告物や看板は、設ける場合でも自家広告のみで景観に則したものとし、屋上広告は使用しない。又、自己の敷地内に設置する表示面積の総量は5㎡以内とする。
		素 材	広告塔、看板等の仕上げは、できるだけ自然材料（布、木、銅、鋳鉄等）を利用し、建築物に同調したデザインとする。
		維持管理	設置者は、長期間の景観維持のため広告板等屋外広告物や看板の保全に努めなければならない。
		照 明	ネオンサインや回転灯、電光式の看板等は設置しない。内照式の看板は電球色とする。
		色 彩	できる限り材料本来の色とし、けばけばしい色は使用しない。
その他		自動販売機	周辺景観との調和に考慮し、建築物等と一体的になるよう努める。屋外に設置する場合は、外装色を JIS Z8721 による 5Y 7.5/1.5 とする。
		休憩施設	ベンチなどを設置し、休憩スペースを提供する。

■山代温泉湯の曲輪 景観整備地区区域図■

